

文章・談話における文末形式「っす」の機能

黒木晶子

1. はじめに

文章・談話における丁寧さに関わる文末形式としては、丁寧形（「です・ます」形）と普通形（「だ・である」形）がある。近年では、(1) の下線部のように、「です・ます」形に促音が入った「っす」という形式の使用も見られる。

- (1) いつも、基本的には「売り切ったらおしまい」の「ほぼ日グッズ」ですが、この「永久紙ぶくろ」は、余計な改良をせずに、もういちどつくって売りましょう、ということになりました。
デザイン、色、まったく同じです。
おかげで価格は、少し安くなりました。
いかにも「定番」という感じになってきました。
うれしいっす。

（「ほぼ日ワンワンセール（「ほぼ日永久紙ぶくろ」ついに「定番」へ?）」）

このような文末形式「っす」は文章・談話においてどのような機能を持つのであろうか。

本稿では、文末形式「っす」の文章・談話における現われ方および機能を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究のまとめ

「っす」に関する先行研究としては、現時点で筆者が把握しているものとして、次の3つのタイプが挙げられる。一つは、実際に行われた会話のコーパス分析をとおして、「っす」の会話における使用実態を明らかにしたものである。尾崎（2002）では、職場における会話のコーパス分析を行い、職場での会話に見られる「っす」について、話し手の世代や性別によって使用の頻度に違いが見られること

を指摘し、特に20代を中心とする若い男性の使用が目立つことを報告している。

次に、ポライトネス理論の観点から「っす」について考察したものがあある。倉持（2009）では、「っす」のコミュニケーションストラテジーとしての機能に焦点を当てて考察した結果、ネガティブポライトネスの機能（敬意を示した方が良い相手に働きかける際に、相手のフェイスを傷つけないように相手を高い位置に置き、自らを低い位置に置く機能）とポジティブポライトネスの機能（積極的に親しさを表す機能）の両方を併せ持つことを明らかにしている。

3つ目のタイプとして、文章・談話において見られる「っす」の機能を、文章・談話を構成する文のタイプという観点から考察したものがあある。福間（2012）は、主としてインターネットのサイトに掲載されている対談記事に現われる「っす」の文を対象として、野田（1998）が提示している文のタイプについて検討した結果、特に心情文、主張文の文末形式として「っす」が現われやすいことを指摘している。

3. 本稿の目的

本稿では、「っす」について、福間（2012）と同様、文章・談話を構成する文のタイプという観点から考察を行う。それは、「っす」について、尾崎（2002）が指摘するような20代の若い男性という、特定の年代、性別の人物による使用が顕著であるということが必ずしも言えない例も見られるのではないかと考えられること、さらに、特定の聞き手を目当てとした会話においてだけでなく、特定の聞き手（読み手）を当てていない文章においても「っす」が用いられる場合があることによる。そして、後者の場合、「っす」の文の内容的な特徴が関わっているのではないかと推察される。

したがって、本稿では、特に同一の書き手による、特定の読み手を対象としないエッセイなどの文章における「っす」の現われ方および機能について考察する。「っす」の文の内容的な特徴を検討するという点から、福間（2012）と同様、文章・談話を構成する文のタイプという観点から考察を行うが、特に福間（2012）では明らかにされていない点として、「っす」の文と「っす」の文の直前の文との関係に焦点を当てて考察を行っていく。

4. 調査対象および調査方法

本稿では、「っす」が使用されている文章・談話のうち、読み手目当ての文章で

あり、話し言葉に近い形で書かれた、軽いエッセイなどの文章を調査対象とする。具体的には、インターネットのサイト『ほぼ日刊イトイ新聞』¹⁾に掲載されている文章を扱う。「っす」が現われると予想されるのは、文章の場合、どちらかというところ、話し言葉に近い形で書かれたものであり、学術論文のような、読み手目当てではない、且つ、いわゆる堅い文章において「っす」が現われることはないと考えられる²⁾。したがって、上述した、読み手目当ての文章であり、話し言葉に近い形で書かれた、軽いエッセイなどの文章を上記サイトから用例として採集した。

なお、用例採集の方法としては、『ほぼ日刊イトイ新聞』に掲載されている記事について、今回は「っす。」で検索し、該当した「っす」の文を含む文章のうち、一人の書き手による文章を抽出した³⁾。

その結果、現時点で、「っす」で終わる文を含む文章として52例の文章を採集した⁴⁾。

それらの採集した「っす」の文を含む文章について、基調となる文体、「っす」の文のタイプ、「っす」の文の直前の文のタイプについて調査した。

5. 調査結果

5.1. 「っす」の文が現われる文章の基調となる文体

今回採集した52の、「っす」の文が現われる文章の基調となる文体は、表1のとおりである。ここで言う、基調となる文体であるが、各文章を構成する文のうち、半数以上を占めるのが丁寧形の文である場合、その文章は「丁寧体基調の文章」であるとし、半数以上を占めるのが普通形の文である場合、その文章は「普通体基調の文章」であるとした。そして、それら以外の文章を「中間の文章」であるとした。

表1 基調となる文体から見た文章のタイプ

基調となる文体から見た文章のタイプ	該当用例数
丁寧体基調の文章	30
中間の文章	12
普通体基調の文章	10

表1によると、丁寧体基調の文章が30例であり、全体の半数以上を占めていることがわかる。

丁寧体基調のものが割合として多かったのは、今回調査対象とした用例が、特定の人物に対して書かれたものではないが、『ほぼ日刊イトイ新聞』の読者に向けて、もしくは、特にある企画に関わった『ほぼ日刊イトイ新聞』のスタッフに向けて、という設定であり、読み手目当ての文章となっていたためであろうと考えられる。

一方、普通体基調の文章は10例見られたが、このうち、「っす」以外の文は全て普通形という文章は6例であった。つまり、残りの4例の文章では、「っす」と「です・ます」が混用されているということである。その場合、「っす」はどのような機能を持つのであろうか。この点も含めて、「っす」の機能について文のタイプという点から見ていく。

5.2. 「っす」の文のタイプ

「っす」の文は全部で63例⁵⁾あったが、それらの文のタイプを野田（1998）の分類⁶⁾にしたがって見ていくと、表2のような結果になった。

表2 「っす」の文のタイプ

文のタイプ	該当用例数
心情文	38
主張文	17
事実文	8

表2によると、心情文が38例と最も多く、次に主張文、事実文の順になっている。

5.3. 「っす」の文の直前の文のタイプ

ここでは、さらに「っす」の文の直前の文のタイプについて見ていく。

5.3.1. 「っす」の文が心情文である場合

心情文である「っす」の文38例について、直前の文のタイプの傾向について見た結果が表3である。

表3によると、心情文である「っす」の文の直前の文で最も多いのは事実文であり、次に心情文、伝達文の順になっている。

(2) は、心情文である「っす」の文の直前に事実文が来ている例である。

表3 心情文である「っす」の文の直前の文のタイプ

文のタイプ	該当用例数
事実文	18
心情文	13
伝達文	6
—	1

※表中の「—」は前に文がない場合を指す。これ以降の表における記載についても同様である。

- (2) ①ずーっと楽しみに楽しみに思いを暖めていたコンサートにやっと思行けました！
 ②しあわせだったーって今、思い返しています。
 ③でも終わっちゃってさびしいっす。

(「5人の Beautiful Songs (After Beautiful Songs)」)

(2) は、丁寧体基調の文章である。「です・ます」形を用いた、読み手目当ての事実文（文①、②）により状況を説明した後、そのことについての書き手の心情を「さびしいっす」と「っす」の文（文③）で述べている。

一方、(3) は、「っす」の文の直前の文が、「っす」の文と同じく心情文である場合の例である。

- (3) ①その後、刷るときスキージの角度、力の入れ方、スクリーン版のつくり方、はては、夏だし暑いので、インクの粘性が落ちて、こうなるのかと思って、冷蔵庫でインクを冷やしたりまでしたけど、ぜーんぜんダメ。
 ②やばい。
 ③マジでやばいっす。
 ④ダメなのか？
 ⑤ここまでののか、オレ。

(「T シャツづくりの実際 その2」)

(3) では、書き手がT シャツに印刷をしようとする試みがうまくいかないことに対して戸惑う気持ちが「マジでやばいっす。」という心情文（文③）で表されている。直前の文②「やばい。」も同じ内容を表す心情文である。(3) は、全体としては普通体基調の文章であり、文③の直後にも「ダメなのか？」（文④）、「ここま

でなのか、オレ。」(文⑤)という、いずれも普通形の心情文が来ている。「っす」の文は、それらの普通形心情文にはさまれた形で読み手目当ての文となっている。

(4) は、心情文である「っす」の文の直前に伝達文が来ている例である。

(4) ①蕎麦好きにはたまらない！

(中略)

②場所は東京都世田谷区、三軒茶屋駅から茶沢通りを少し下って左側です。

(中略)

③とにかく一度食べてみて。

④や、やばいっす。

(「まるでハガキのように。(お題付き短文投稿ページ<1.32>昼メシのうまい店)」)

(4) は、書き手がすすめる蕎麦屋について書いた文章であるが、文③は読み手に一度その店に行ってみることをすすめる伝達文になっている。その後、文④で「や、やばいっす。」という心情文が来ている。なお、ここでの「やばい」は、「あぶない」という意味ではなく、あるものの内容が素晴らしいという意味であり、書き手がすすめる蕎麦屋のそばが非常においしいというプラスの意味を表している。

5.3.2. 「っす」の文が主張文である場合

主張文である「っす」の文17例について、直前の文のタイプの傾向について見た結果が表4である。

表4 主張文である「っす」の文の直前の文のタイプ

文のタイプ	該当用例数
事実文	7
主張文	5
伝達文	4
—	1

表4によると、主張文である「っす」の文の直前の文で最も多いのは事実文であり、次に主張文、伝達文の順になっている。

(5) は、主張文である「っす」の文の直前に事実文が来ている例である。

- (5) ①前回「また次回も元気でお会いしましょう」と書いたのに、風邪をひいてしばしばした。
②余計なこと、書くもんじゃないっす。
③口のみで呼吸しながら、作りましたよう。
④30コです。
⑤半分超えました。
⑥わーい！

(「『ほほ日』読者が寄ってたかって、コンピュータ用語辞典をつくらう。)」

(5) は、丁寧体基調の文章であり、文②で「っす」が使われているが、直前の文①の事実文で書き手自身がとった行動について述べている。その行動を表すのに書き手は「風邪をひいてしばしばした」(下線部は本来は「ひいてしまいました」と見られる)のように「～てしまう」という遺憾の意を表す形式を使っており、そのことに対する自身の反省を続く文②の主張文で述べている。

一方、(6) は、「っす」の文の直前の文が、「っす」の文と同じく主張文である場合の例である。

- (6) ①帰ってきた、栄福寺で今日、なんとなく、考えていたのですが、お寺関係者だけじゃなくても、仏前結婚式って、結構、一般の人にも、喜ばれるんじゃないかな。
②最近の若い人達は、“かっこいい”から“ファッション”として、教会で結婚式をしたいという人は、どんどん減ってくると思います。
③営業妨害するわけじゃあ、ないっす。

(「坊さん。57番札所24歳住職7転8起の日々。(第113回 仏前結婚式!)」)

(6) の文②は書き手の意見が記された主張文であり、それに対する補足的な主張として文③の「っす」の文があると考えられる。書き手は僧侶であり、友人の結婚式に参加した経験をふまえて、今後、教会での結婚式が減少する可能性があるのではないかという意見を文②で述べているが、そのようなことを述べることで読み手が持つかもしれない反感をあらかじめ考慮して、補足する内容を「っす」の文で述べていると考えられる。

(7) は、主張文である「っす」の文の直前に伝達文が来ている例である。

- (7) ①次、その姿を見るときは、応援しようと思ったのですが、この北京を最

後に引退されるそうです。

②銀メダルおめでとうございます&お疲れ様でした。

③体を泳がせながらのホームラン、忘れないっす。

(「観たぞ、北京オリンピック！」)

(7) は、北京オリンピックについての感想のメールであるが、文②は、オリンピックのある競技において活躍し、引退する選手に対して向けられた言葉であり、伝達文である。そして、続く「っす」の文(文③)は不特定多数の読み手に向けた主張文であると同時に、その選手に対する言葉にもなっていると考えられる。

5.3.3. 「っす」の文が事実文である場合

事実文である「っす」の文8例について、直前の文のタイプの傾向について見た結果が表5である。

表5 事実文である「っす」の文の直前の文のタイプ

文のタイプ	該当用例数
事実文	4
—	3
心情文	1

(8) は、「っす」の文の直前の文が「っす」の文と同じく事実文である場合の例である。

(8) ①あっ！

②申し遅れました…。

③おいら ただいま、8月8日から始まる「阿修羅城の瞳」と言う舞台の稽古中！

④あっちっす。

⑤あつついっす。

⑥汗がポタポタ流れるっす。

⑦汗の中に 顔があるんじゃないかって、思う瞬間があるっす。

⑧汗で顔が 流れるんじゃないかって、思う瞬間もあるっす。

⑨…。

⑩頑張ってるっす……。

(8) の書き手は女優であり、自身の厳しい夏の舞台稽古についての、「っす」で終わる事実文を3文続けて記している(文⑥、⑦、⑧)。また、直前の2文(文④、⑤)が「っす」の心情文であるが、それらの文において「っす」の前に「あつい」という形容詞のくだけた語形「あっちー」「あつつい」が現われており、また文③で「おいら」という、これもくだけた自称詞を使用していることから、女性でありながら、わざと男性的な粗野な言葉遣いをするることにより、厳しい練習状況について、ユーモアを込めて、重い感じにならないように伝えようとしていると考えられる。また、「っす」の文を繰り返し、さらに「～じゃないかって、思う瞬間が(も)あるっす。」という文全体のパターンを文⑦、⑧で繰り返すことで、文章にリズムを出す効果をねらっているとも考えられる。

6. 考察

5で、一人の書き手による軽いエッセイなどの文章に見られる「っす」の文を、文のタイプという点から検討し、さらに、「っす」の文と「っす」の文の直前の文との関係を検討した。その結果、「っす」の文は、心情文、主張文に現われやすく、直前の事実文、主張文で記された内容に対する書き手の気持ちや補足的な内容を提示する機能を持つことがわかった。また、文の内容を重い感じにならないように伝える、といった、書き手の発話態度を表す働きを担うことがあることがわかった。

「っす」の文が心情文である場合の「っす」の機能であるが、野田春美(2006)において取り上げられている「擬似独話」との関連が指摘できるのではないかと考えられる。

野田(2006)は、エッセイにおいて普通体が使われている場合に、それが擬似独話(「読み手を意識しないから普通体をとるのではなく、読み手を意識したうえで、独話であるかのように表現されたもの」(p. 202))である場合があることを指摘する。たとえば、(9)の下線部が擬似独話に該当する。そして、このような擬似独話が特にエッセイ末に用いられると、「話の最後になって本音を述べているように見せることができ、書き手が読み手にとって身近な存在であるかのように感じさせるのだと思われる。」(p. 208)としている。

(9) 今回わかったことであるが、高松はうとんだけでなく、オプションもやた

らおいしい。天ぷらも抜群だが、お寿司がいい。甘みの強いお寿司がうどんとやたら合うのである。私はおごってもらったお礼に、このお寿司を二皿ケースから出してもらう。うどんと共に頬張る。幸せ。ソバ派の気取っている人たちに、ザマーミロっていい気分。ああ、おいしい。

(林真理子『旅路のはてまで男と女』 p. 275…野田 (2006 : p. 205) で提示されている用例)

「っす」の文の場合も、同様に、文章において直前の事実文とセットで使うことで、それまで述べてきたことに対する書き手の本音を伝える働きを担っていると考えられる。5.3.1で見た(3)のように、同様の内容の擬似独話(文②)と「っす」の文(文③)が共起する例が見られることから、擬似独話と「っす」の文が非常に近い機能を持っているのではないかと考えられる。

ただし、擬似独話と異なる点は、「っす」の文が読み手目当てであるということである。「っす」の文は、書き手の本音を伝えるが、それを読み手目当てにして伝えることで、擬似独話よりも読み手のことを考慮して伝えるという機能を持つのではないかと考えられる。そして、場合によっては、「っす」の文と擬似独話とを併用しながら心情を伝えることを、書き手は文章においてうまく調節しながら行っているのではないか。

7. おわりに

本稿では、文末形式「っす」の、文章・談話における現われ方および機能について、特に話し言葉に近い形で書かれた、軽いエッセイなどの文章を調査対象として考察した。

5で見たように、「っす」の文が、文章・談話を構成する文のタイプのうち、特定の文のタイプに現われやすいことについては、「っす」の前に来る形式の問題も関わっていると考えられるが、この点については、今後の考察課題としたい。また、本稿では、考察対象とした「っす」の文を含む文章の数、ジャンルともに限られたが、今後さらに幅広く用例を採集し、考察を行いたいと考える。

注

- 1) コピーライターの糸井重里が主宰し、株式会社東京糸井重里事務所によって運営されているウェブサイト。なお、本稿で本サイトを使用するのは、上述した、文章でありながら話し言葉に近い形で書かれている記事が掲載されていること、また、本

サイト上で言語形式による掲載記事の検索が可能であることによる。

- 2) 黒木 (2011) では、学術論文50編の文末形式について調査し、そのうち49編について言い切りの文末形式が全て普通形の「である」であり、1編のみ文末形式「だ」を含む論文があったことを報告している。
- 3) 一人の書き手によるエッセイの他に、報告文やサイトに寄せられた読者メールも含めた。なお、文章が長文である場合は、「っす」の文を含む一段落を一つの用例と見なした。
- 4) 「っす」の文を含む文章としては、実際には52例以上の用例が該当したが、本稿では、一人の書き手によるものであるということが本稿執筆時点で確認できたものを考察対象として抽出した。
- 5) 「っす」の文の数が考察対象とした「っす」の文を含む文章の数 (52例) と異なるのは、一つの文章中に複数の「っす」の文が見られるものがあったためである。
- 6) 野田 (1998) では、文章・談話を構成する文を、聞き手に対する意識の強さに応じて、次の5つの種類に分類している。

表 文章・談話を構成する文の種類

心情文	話し手の心情を表す文
従属文	ほかの文に従属している文
事実文	事実だけを客観的に述べる文
主張文	判断や説明を表す文
伝達文	質問や命令を表す文

※野田 (1998 : p. 95) をもとに作成。

そして、表の下の方に位置する文ほど聞き手に対するはたらきかけが強い内容を表し、丁寧形になりやすく、逆に、表の上の方に位置する文ほど聞き手に対するはたらきかけが弱く、普通形になりやすいとしている (p. 95)。

用例出典

ほぼ日刊イトイ新聞 (<http://www.1101.com/home.html>)

参考文献

- 尾崎喜光 (2002) 「新しい丁寧語「っす」」『男性のことば・職場編』、pp. 89-98、ひつじ書房
- 倉持益子 (2009) 「新敬語「ス」の使用場面の拡大と機能の変化」『明海日本語』14、pp. 25-35、明海大学
- 黒木晶子 (2011) 「論文における「だ」系と「である」系の形式の混用について」『文教国文学』55、pp. 22-34、広島文教女子大学国文学会
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房

- 野田春美（2006）「擬似独話が出現するとき」『日本語文法の新地平2 文論編』、pp. 193-213、くろしお出版
- 野田尚史（1998）「「ていねいさ」からみた文章・談話の構造」『国語学』194、pp. 89-102、国語学会
- 福間美幸（2012）「文章・談話に現れる「(っ)す」について」（平成23年度広島文教女子大学人間科学部人間言語学科卒業論文）
- 三牧陽子（2000）「丁寧体基調の談話にみる独話的発話・直接引用・心情の直接表出—「働きかけ方式」のボライトネス・ストラテジーとして—」『多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集』4、pp. 37-53、大阪大学国際教育交流センター

（本学准教授）